

普及啓発・人材育成推進方策検討ワーキンググループ
第2回会合 議事要旨

1 日時

平成24年1月12日(木) 16:00～18:00

2 場所

山崎ビル3階会議室

3 出席者(敬称略)

(主査)	小泉 力一	尚美学園大学大学院教授
(委員)	浅川 玲	日本放送協会
	荒木 浩一	株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ
	尾花 紀子	ネット教育アナリスト
	勝村 幸博	株式会社日経BP社
	川上 隆	学校法人岩崎学園
	清貞 智会	グーグル株式会社
	小屋 晋吾	トレンドマイクロ株式会社
	近藤 則子	老テク研究会
	佐竹 正範	ヤフー株式会社
	里中 慧	株式会社ミクシィ
	杉浦 昌	日本電気株式会社
	高橋 正和	日本マイクロソフト株式会社
	千原 啓	グリー株式会社
	長島 武生	日本電信電話株式会社
	西本 逸郎	株式会社ラック
	藤本 浩司	株式会社電通
	前田 典彦	株式会社カスペルスキー
	武笠 貴史	KDDI株式会社
	本橋 裕次	マカフィー株式会社
(事務局)	占部 浩一郎	内閣審議官
	泉 宏哉	内閣参事官
	木本 裕司	内閣参事官
	木原 栄治	参事官補佐
	花岡 一央	参事官補佐

4 資料

資料1 普及啓発・人材育成推進方策検討ワーキンググループ第1回会合 議事要旨

資料2 平成23年度情報セキュリティ月間概要

資料3 平成23年度情報セキュリティ月間における取組予定事項

資料4 平成23年度情報セキュリティ月間における官民連携の方法(案)

資料5 今後のスケジュール

参考資料 普及啓発・人材育成推進方策検討ワーキンググループ委員名簿

5 議事概要

(1) 平成23年度情報セキュリティ月間概要

事務局より資料2に沿って説明後、委員による意見交換が行われた。委員等からは以下のような意見が述べられた。

- 一般の方に身近なセキュリティ月間になることを個人的には推したい。
- 最新のセキュリティ状態にしろと言うのは簡単だが、特定の製品のアップデートを紹介するだけでいいのか、サポートが終了する場合にどうするのか等の実装を上手く説明するところが肝になると考える。
- 官房長官の記者会見では、セキュリティ対策してくださいと言うのではなく、具体的にこのポイントをやってくださいと言われると、会社の中の普及に対しても説得力のある活動ができると思う。
- 各府省庁の施策が一般の方から見て整合するように、内閣官房でとりまとめをお願いしたい。例えば月間のページから案内すれば整合性が取れると思う。
- SNSは、月間期間中だけアカウントを生かすような使い方ではユーザーにとってフォローする意味がない。継続的にコミュニケーションできる運用体制ができないのであれば、すでにフォロワーのいる場所を使うほうがよいと思う。
- 1か月間イベンチュアなことをやっておしまいというのではそもそもの趣旨が通せない。ソーシャルメディアは長く続いてこそ効果があると思う。
- セキュリティでは、インターネットはグローバルだから危ないという言い方をする。活動もインターナショナルでやっていくことが重要と思う。

(2) 平成23年度情報セキュリティ月間における取組予定事項の紹介

事務局より資料3に沿って説明後、委員による意見交換が行われた。委員等からは以下のような意見が述べられた。

- KDDIでは、コンシューマ向けホームページにおける月間バナーの掲載、社内メルマガにおける月間の活動紹介をしようと思う。
- カスペルスキーでは、海外向けブログにおいて、日本でこんな取組があると紹介できないか検討しているところ。
- NPO 情報セキュリティフォーラムの取組は小学校や中学校を対象としているが、ほとんどが先方からの依頼であり、子どもたちと保護者の関心が高まって

いる。行政とも連携して組織的にやっていくと広がっていくとを感じる。

- 子どもや保護者を対象にネットの安心安全を伝える講演を2か所で行う予定。また、日経BPに原稿を一本書こうかと思う。
- 皆さんの取組一覧をホームページに出しただけでは、見に来る方はそうはいないので、メルマガ発信等そこに来てもらうような仕掛けをお願いしたい。
- 当社では、セキュリティ教育をしてほしいという学校からの要望に、セキュリティ技術者がボランティアな活動として個人的に応じた例がある。そのような声が集まるところを置いてそこから各企業に分配してもらえるといいと思う。
- マイクロソフトでは、パッチ当てようというのを何社か集まった形やろうとしている。パッチを当てることはOSだけではなくあらゆるソフトウェアで必要である。それらがまとまった形でどうすればいいのかわかるようなことを今年はやりたい。
- 十月に衆議院のサーバがやられたが、議員の皆さんがセキュリティ講座を受ける話というになるとメディアが来るのではないか。当時パスワードを更新しなかった半数の議員に認識を持っていただいた上に、国民にも広がると思う。
- 一般の人にこれは大ごとだと見えるように、本来はライバルである企業がこのワーキンググループに集ったことにより、合同でメッセージを発信できればよいと思う。
- NTTではWebバナーの掲載と企業内周知をやるが、NTTグループとして対応したいと思う。企業内周知については、我々の企業と関連している人たちにも繋がっていくようにしたい。
- マテリアルを集中させたサイトがあってもいい。リンク集でも十分面白いと思うが、入門から高度なところまで揃え、すべての製品と相当数のドキュメントにリーチできれば面白い。
- マテリアルといえば、デジタル情報よりも、デジタル情報の入った手に触れるもののほうが反応はあると思う。
- ヤフーでは啓発のためのページを作る。政府が作成する動画コンテンツを流用させていただくか、もしくは啓発ページから動画コンテンツに誘導することを考えたい。
- 宣伝するつもりはないが、何かマテリアルを集める場がほしい場合は、一つの可能性として当社のサービスを使ってもらえるとよい。
- 人の目に触れるチャンスが多いところに何らかのものを置いておくというのは重要だと思う。
- キックオフシンポジウムは、対象者をブレイクダウンし、業務の一環として参加しやすいメインタイトルや開催日時にしてもらえると、紹介あるいは参加するほうもやりやすいと思う。
- このようなシンポジウムはどうしても東京になってしまう。可能であれば全国にストリーム配信することを検討いただきたい。
- みんながパスワードを変える日を作ってはどうか。なにか具体的に動くものがあると活動もしやすし、積み重ねることでリテラシーも上がっていく。今年

は無理でもどこかのタイミングで考えたらどうかと思う。

- ラックとしても Web バナーの掲載等は協力したい。また、こういうイベントはまじめな部分が多いので、去年から二月九日の肉の日にセキュリティ関係者で肉を食べてセキュリティを語ろうというイベントを始めた。今年も継続したい。
- わかりやすいのが大事だが、わかりやすいものは定着しないという部分もある。定着させるには仕組みを知ることが大事だが、難しくなると離れていく。極めて難しいその辺をこのワーキンググループでうまく啓発できるといい。
- 1日ひとつ何かをやるというのはいいと思う。去年のホームページにあった1日ひとつの取組のメッセージを今年もやるなら、前面に出るような形にしてみたい。
- 個人的な取組として、土星が近づいているからパスワード変えろとか、星占いで必然性を付けてメッセージしたらどうかという実験をしている。

(3) 平成 23 年度情報セキュリティ月間における官民連携の方法 (案)

事務局より資料 4 に沿って説明後、委員による意見交換が行われた。委員等からは以下のような意見が述べられた。

- 民間でできないものといえば、宣言である。全体の方向性を包括するような国のメッセージが出るとそれに紐づく形でアライアンスを組みやすい。IT が大事であり、IT のファンダメンタルとしてのセキュリティだということで、国民一人一人の武器としてのセキュリティのようなメッセージが出ると嬉しい。
- セキュリティベンダが言うとまた宣伝かとなるので、官房長官のような方がメッセージを言ってくると取り上げやすい。そのようなきっかけから月間になると、みんなでなんかしているなという感が出る。
- 今までで一番インパクトがあった官房長官の会見は「ウィニーは使わないでください」である。1 年で全部を解決する必要はないので、ひとつのクリアなメッセージが出てくると伝わりやすい。
- 官房長官の発言はどうしても丸めた形になってしまうが、パスワードや標的型攻撃など、何か具体的な言葉が一つでもあるとよい。官房長官がそういう単語を言ったというだけでインパクトがある。
- キャッチーな短い言葉があればいい。会見のなかでキャッチーな短い言葉を何度か繰り返すことによって印象に残る。流行語大賞を目指すぐらいがよい。
- もし今年のキャンペーンを、パスワードを変えましょうという風にするなら、どうやって変えるのか、どこに聞けばわかるのかということに合わせて広報してもらいたい。
- 官がパスワードを変えようと提言をした後に、民がトップページからワンクリックでパスワード変更ページに行けるバナーを載せるような形の官民連携も一つのアイデアである。
- パスワードをどう変更するのが最適なのか基準を示すのが大事だと思う。オ

ーオトラリア政府の 35 のミチゲーシヨンストラテジーのように明確なポリシーが明らかになるとわかりやすい。

- 今年度の月間のキャッチ題材が不審メールなら、不審メールという言葉は何が不審なのかわかりにくいので、流行語大賞を取れるような新しい言葉に変えて、官房長官に言っていただくことを検討してはどうか。
- キャッチ題材が不審メールであっても、パスワードについて出たアイデアや提案は活かしてもらいたい。

(4) 情報セキュリティの普及・啓発全般について

委員による自由討議が行われた。委員等からは以下のような意見が述べられた。

- 高齢者といっても 60 代と 80 代を一緒にするのは無理がある。インターネット初心者に的を絞って広報啓発してはどうか。カタカナ言葉が苦手な人が相対的には多いという点に配慮してもらえるとよい。
- 小中学校の保護者や学校の教員向けに、そこを見るだけである程度の知識がつくようなサイトがあればと思う。
- マテリアルというのは非常に扱いが大変である。必要なマテリアルを抽出できるように指標を用意し、かつそのマテリアルが必ずあり、古く間違った情報は存在しないようにしておく必要がある。国が提供する場合は慎重にならなければいけないと思う。
- インターネットセキュリティや、プライバシーに関するセキュリティという言葉ならわかるが、情報セキュリティという言葉は、一般の人たちに自分に関係ないと思われてしまうのではないかと危惧している。キャッチに使う言葉としてピンと来るのか検討してもらえると嬉しい。
- セキュリティというテーマのニーズが少ないために、役に立つ動画があまりないという悪循環になっていると思う。ニーズがなくてもあえて作ってきちっとサポートする仕組みができるとよい。
- セキュリティの情報は、身近な人から入手する人が最も多いという調査結果がある。マテリアルを用意しても普通のユーザーは取り来ないのではないかと。コミュニティ対して何かするほうが早道と考える。
- セキュリティは利用者からすると何をすればいいかわかりづらい。セキュリティソフトを入れていれば大丈夫なのか、更新をしていれば大丈夫なのか、それだけじゃないのかということだけでも教えたらどうか。
- 大丈夫なのかという質問に対して答えるすべは誰も持っていない。10 回に一回けがするのか、100 回に一回けがするのかの違いかもしれないが、あきらかに最新のセキュリティソフトを入れて最新の状態にしたほうが安全である。
- 大丈夫なのかという質問に誰も答えられないと、じゃあ使わないほうがいいと思う人が出てくる。最低限実施すべきわかりやすい原則を言っていただければと思う。

- アンチウイルスというのはシートベルトのようなものであり、シートベルトをしていても交通事故に遭うと死ぬ場合はある。事故を起こさないようにユーザートレーニングや啓蒙が必要。
- パソコンの使い方がわからないレベルからセキュリティを啓蒙していくというのも大事で、単にパスワードを変えろというのではなく、どういうパスワードが安全か何日程度で変更しなければいけないのか啓蒙が必要と思う。
- IDとパスワードの組み合わせにより、その人が本来使う人であるということを確認する所作がわかりにくい。これはユーザビリティの問題であり、個々のベンダーに指紋認証などの容易なインターフェースを考えてもらう必要がある。
- 指紋認証を使えないレベル、パスワードは暗証番号のことだと言わなければならないレベルがある。パスワードを意味する言葉にはいろいろなものがあるため、暗証番号というなど工夫すればよいと思う。
- パスワード変更のしかたについて、簡単な短いムービーを並べておいて、見に行ってもらうのはどうか。
- ウィンドウズのパスワードを変えるビデオを作るのは難しくないが、ウェブに関するアカウントは膨大であり、パスワードといってもどこのサイトの話かわからないというところからはじまる。
- パスワードの変更については、とりあえずはメールだけでもいいのではないかと。普通のユーザーはインターネットサーフィンするかメールを使うかである。
- 誰もが使うであろうメールに特化してもよいと思う。ホームセキュリティに例えるなどわかりやすく中身をまとめて、セキュリティソフトは入れよう、ウイルスチェックはしよう、パスワードの更新はしよう、それをやれば私たちは一番最低限のレベルで不審メールをチェックすればよいというところに落とし込むと一つの話ができる。
- 冷蔵庫の扉を閉めるように促す人形のように、パスワード更新を促すアプリを開発して提供すると面白い。
- 長期視点での普及啓蒙を考えるのであれば、使っているデバイスやリテラシーの高さなどでクラスタわけし、誰に何を伝えるのかという枠組みを整理するところをまずすべき。
- 国がITを社会生活に必要なものと考えるのであれば、セキュリティも含め、義務教育に入れるとか、税金を使ってなんでもやればよいとか、極論をいえば、法律を作って過失であっても罰するといった議論もある。議論のラインやターゲットをある程度決めてほしい。
- 国に期待するのは、国の方針としてITが欠かせないものであるという認識と、そのうえでセキュリティが欠かせないファンダメンタルであるという根の部分である。個別のレイヤは民間で構わないと思う。

(5) 今後のスケジュールについて

事務局より資料5に沿って説明。

－ 以 上 －